

直播管理情報（乾田直播第1号）

令和7年3月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

播種後の水管理と確実な初期除草で出芽・苗立ちを確保しましょう！

- ① 苗立ち安定・鳥害回避のため、ほ場が乾いた状態で、V溝の深さ5cmで播種しましょう
- ② 本葉が2枚出るまでは、ほ場内に水たまりができないよう、排水対策を徹底しましょう
- ③ 最初の除草剤は、出芽前のタイミングを外さず散布しましょう

1 播種の準備

- ・ほ場は、クローラーが沈下しない程度まで十分に乾かしましょう。
- ・施肥量は、LPss 乾田直播専用を土壌区分により設定し、播種量は乾籾で6～8kg/10aが目安です。

土壌区分	LPss乾田直播専用(40-0-0)		10a当たり播種量
	10a 当たり施用量	全チツン成分	
砂壤土	21～24kg 程度	8.4～9.6 kg	乾籾6～8kg (目標苗立数:30～40 本/m)
壤質土	19～22kg 程度	7.6～8.8 kg	
粘質土～半湿田	17～20kg 程度	6.8～8.0 kg	

※コシヒカリ
の場合

2 種子処理

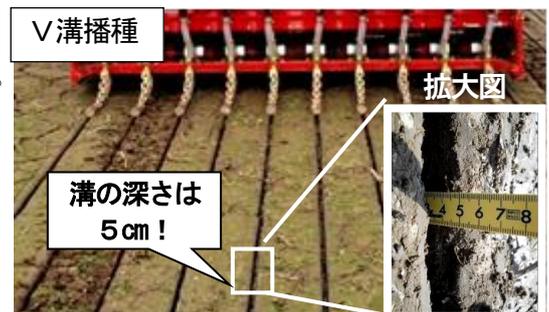
- ・種子消毒は、キヒゲンR-2フロアブルにより行いましょう。
- ・種籾にFS剤を塗抹処理することで、本田での防除作業が不要になり、労力を削減出来ます。

〈キヒゲンR-2フロアブル〉

防除時期	播種前
希釈倍率	乾燥種子1kg 当たり原液20ml
使用方法	塗抹処理（種子を均一に塗抹）
適用病害虫	苗立枯病（ピシム菌）、ごま葉枯れ病、いもち病、ばか苗病

3 播種

- ・播種は、4月中旬～下旬を中心に行いましょう（播種が早すぎると除草剤散布タイミングが難しくなります）。
- ・ほ場が乾いた状態で播種を行いましょう。
- ・苗立ち安定・鳥害回避のため、V溝の深さ5cm程度に播種され、適度に覆土されているか確認しましょう。（プレートリール→ケンブリッジローラー体系の場合は、深さ2～3cm程度）

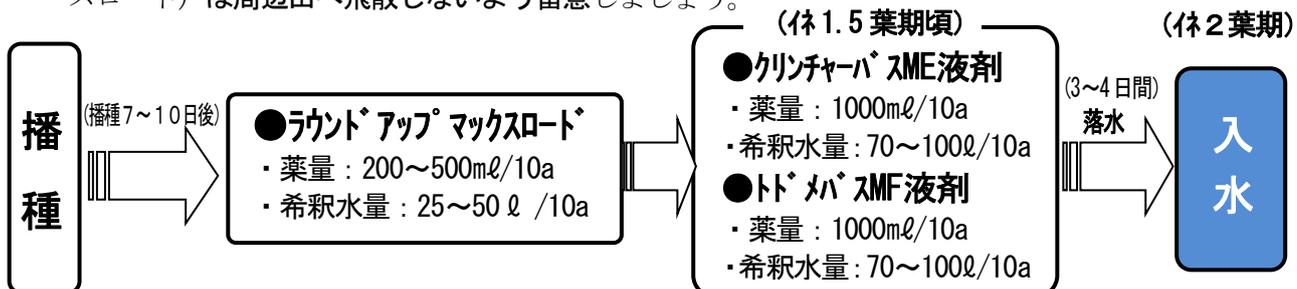


4 播種後の水管理

- ・芽が出揃う（本葉1～2葉）までは、ほ場内に水たまりができないように排水溝の手直し等を行い、迅速な表面排水に努めましょう。
- ・播種後、長期間無降雨日が続いた場合は、播種後1週間目と2週間目に通水処理（1～2日程度の浅水管理後に強制落水）を行って、出芽を促進しましょう。
- ・周囲の移植田等からの浸水や湛水後の漏水を防ぐため、畦畔の補修点検を行いましょう。

5 除草剤の散布

- ・除草剤は、使用基準を守って正しく散布しましょう。特に、非選択性除草剤（ラウンドアップマックスロード）は周辺田へ飛散しないよう留意しましょう。



入水以降の除草剤については、次号（4月下旬発行予定）でお知らせします。

春の農作業安全運動実施中（3月1日～5月31日）

～農作業事故ゼロを目指して、事故防止対策を徹底しましょう！～